

仮称 **とよなかの市民活動  
共同デスク**

2011年11月 発行 第1号  
とよなかの市民活動・共同デスク実行委員会  
(社福) 豊中市社会福祉協議会  
(財) とよなか国際交流協会  
(財) とよなか男女共同参画推進財団  
(特活) とよなか市民環境会議アジェンダ21  
(特活) とよなか市民活動ネットきずな(事務局)  
TEL&FAX: 06-6848-8989

5団体がこれから予定しているイベント

豊中市社会福祉協議会



「ボランティアフェスティバル」  
2月11日(祝) 10時～15時30分  
豊中市すこやかプラザ(岡上の町2)  
社会福祉協議会と市内で活動するボ  
ランティアグループが協力して活動  
発表やいろいろな体験コーナーを設けます。

とよなか国際交流協会



「南北コリアと日本のともだち展」  
12月1日(木)～6日(火)  
とよなか国際交流センター  
「わたしのたからもの」をテーマに  
した、南北コリア、中国、在日、日本の子どもたちの  
作品展です。

とよなか男女共同参画推進財団



「つながるちからをつける4講座」  
12月17日(土) 13時～16時すてっぴ  
「人生、最後は一人?の心がまえ」  
(西川勝・大阪大学特任教授) /  
「シニア劇団で人生再チャレンジ」  
(倉田操・俳優、映画監督) / 他に市民企画委員2講座

とよなか市民環境会議 アジェンダ21



「とよなか市民環境展」  
12月9日(金)、10日(土)  
これまでの会場、市民会館が休館のため、今年  
は豊島体育館で開きます。市民団体や事業者など、  
多くの団体が、展示、体験、実験などコーナーを  
設けます。

とよなか市民活動ネットきずな



「2011 市民文化祭」  
12月3日(土)、13時～16時。  
とよなか男女共同参画センターすてっぴ  
ダンスやギター演奏など、高齢者から  
若者まで、様々なグループが演じます。

共同デスクから

今年3月、私たち豊中市内の5つの中間支援団体は、市内で活躍している180ほどのグループを紹介する「2011 とよなかの市民活動ガイドブック」を協力してつくりました。5団体で配布中です。

中間支援団体って

私たち5団体に対して、「市役所の外郭団体か、下請け団体ですか?」と、聞かれることがあります。確かに、市の施設運営や業務に協力しているため、そんな質問がでてくるわけです。

私たち5団体は、いずれもが、市民のボランティア活動やNPO活動などに対して、活動場所の提供や運営上の課題に相談などで支援しています。こうした活動に取り組む団体のことを中間支援団体と言います。これからもよろしくお願ひします。



9月4日「共同デスク」が初めてのイベントを開催

東日本大震災のボランティア活動からみえてきたこと

9月4日、「共同デスク」としての初めてのイベントを、国際交流センターで開催しました。会場の第4会議室では関係する5つの中間支援組織の紹介パネルを展示(写真=下右)、豊中市社会福祉協議会の藤岡さん(写真=右)が、「東日本大震災へのボランティア活動について講演、20人が参加しました。



藤岡さんのお話では、5月17日から1週間ほど、東北への道中、モノはない、ガソリンない、サービスエリアでは緊急車両のみ。そんななかを仙台に到着すると、街中は何事もなかったように、スーパーは開き、サラリーマンは背広にネクタイ姿。その一方、クルマで1時間も、ひどい状態になっていた。屋根の上に船がある。マンションの3階に軽自動車刺さっている。などなど...



「モノが90個あり、避難所に100人がいたとしたら、あと10個届かないと分配しないところもあった」という話を聞き、臨機応変で対応する工夫がいると感じました。いま、すぐ必要な人が90人以内なら、先に配るという方法もあります。

他の人からの話ですが、避難所で、家族ごとに区切れるパネルの支給がありながら、「みんな一緒にいい」との長老さんの一言で、片隅に置いたままになっていたりするらしい。司令塔となる人の力量が問われるとも感じました。(すてっぴ・中村記)



< 現地の方からのお話 > 顔と顔の見える関係から

わたしは、会津に住んでいます。今日、この会場で福島農産物を販売しています。会津にいると被災者という気がしないこともあります。でも、大文字のたいまつ事件は、かなり離れた陸前高田市のことなのにショックでした。地元の若い親は、自分の父が作った米を自分の子どもに食べさせられないという現実があります。豊中への農産物の持ち込みは風評も含めて難しいです。今日は顔と顔が見えるからでしょうか、買っていただき良い経験をしました。すべて顔と顔の見える関係というのは不可能ですが、心情を知ってほしい気持ちを伝える機会となりました。



和歌山県 台風12号被害支援活動  
豊中社協・現地レポート

和歌山県の台風12号被害支援のため、9月12日から16日まで、豊中市社会福祉協議会のボランティアセンターでは、職員1名を派遣しました。社協の近畿ブロックの取り組みで、豊中は、日高川町に行きました。



同町は、台風12号の影響により死者3名、行方不明者1名、全壊71戸、半壊32戸、床上浸水159戸、床下浸水26戸(9月20日現在)など、大きな被害がありました。

被災者からのニーズに対応した支援活動に取り組めるよう、日高川町社協が、美山地区に開設した災害ボランティアセンターのサテライト(写真=右)を設置し、町内2箇所でボランティア活動の受付・調整機能を支援しました。また、10月8日には、新宮市社協災害ボランティアセンターの熊野川町サテライトで、市社協登録ボランティアなど総勢16名が支援活動を行いました。(社協・藤岡記)

